

2019年4月21日

## 福音書からのメッセージ

そして、墓から帰って、十一人とほかの人皆に一部始終を知らせた。

(ルカによる福音書 24 章 9 節)

イースター、おめでとうございます。先日、夜にきれいな月を見ていました。イースターは「春分の日後の最初の満月の次の日曜日」と定められていますので、毎年日が変わります。去年は4月1日でしたが今年は4月21日、ちなみに来年は4月12日です。しかし毎年、イースターの頃には、月が明るく輝いているということは変わりません。

イエス様の復活は、十字架の死の三日後の日曜の朝に起こりました。ユダヤでは、日曜日の三日前は金曜日になります。その日イエス様は十字架の上で、「父よ、わたしの霊をみ手にゆだねます」と大声で叫ばれ、息を引き取られました。

その後、イエス様の遺体はお墓に葬られます。聖書には「岩に掘った墓の中」と書かれています。遺体を土の中に埋めたり、火で焼いたりすることはなく、亜麻布を巻いて岩の中に出来た空間に遺体を置き、その入り口を大きな岩でふさいでいたようです。今日の福音書に出てくる婦人たちは、イエス様の十字架の死を遠くに立って見ていました。またお墓と、イエス様の遺体が納められるありさまとを見届けました。そして家に帰って、香料と香油を準備しました。

安息日が始まる前にこれらすべてのことがおこなわれました。それは安息日が始まると、一切のことができなくなるからです。イエス様の遺体のそばに行くことも、触れることも、何もできない時間が始まるわけです。安息日は金曜日の日没後から土曜日の日没後まで続きます。その時間、彼女たちは何を思っていたのでしょうか。空を



照らす月明かりとは対照的に、彼女たちの心は沈み、暗闇の中に落とされていたの

ではないでしょうか。

しかし彼女たちは、目の前が真っ暗になり、歩くことすらできないという状況を体験したからこそ、イエス様の復活という出来事が、一筋の光として飛び込んできたのでしょうか。そのときに初めて、悲しみが喜びへと変えられたのです。

わたしたちは何度も神さまを裏切り、神さまに背き、自分勝手に生きています。わたしたちは、神さまから見捨てられても仕方のない、そんな一人一人です。しかし神さまは、そんなわたしたち、罪にまみれたわたしたちが滅んでしまうことを望まなかった。神さまの目から見たらちっぽけで、どうしようもない存在のわたしたちを、生かそうとしてくださった。暗闇にいるわたしたちを引き上げてくださる。

そのために、神さまはイエス様をこの世にお与えになったのです。わたしたちの罪を背負い、十字架で死なれたイエス様。わたしたちの罪は釘となって、イエス様の手足を貫きます。イエス様に見捨てられても仕方のない。でもそのようなわたしたちの元にもイエス様は来てくださいます。それが復活の喜びなのです。

### 桃山基督教会

〒612-8039

京都市伏見区御香宮門前町 184

TEL/Fax 075-611-2790

メール momoyama.kyoto@nssk.org

<教会ホームページ>

<http://momoyama.hannari.com/>